

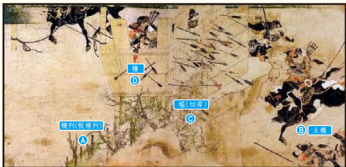
## 遺跡の立地

大鳥井山遺跡は小吉山（こきちやま）及び大鳥井山（おとりいやま）の2つの独立丘陵上に立地する。北に位置する小吉山は面積73,410㎡、標高77aである。南側の大鳥井山は面積26,310㎡、標高91aであり、西側の低湿地からの比高24aである。両丘陵の東側にはやや低い平地が存在し、江戸時代の羽羽街道が南北に走るほか、街道と小吉山との間には昭和50年代まで溜池が存在した。（斜め右下へ）



街道の東側には別の独立丘陵が存在し、大鳥井山遺跡とはほぼ同時期の遺跡である自然発跡跡が立地する。その東側には野野神社が立地する独立丘陵、溜池（明水沼）が続き、道路から約1kmで奥羽山脈の東麓に達する。

遺跡の西側を横手川が北流するほか、北側を吉沢川が、南側を明水川が西流してともに横手川に注ぐため、東側以外は河川によって取り巻かれる格好となっている。このため小吉山北側・西側及び大鳥井山西側は急峻な侵食崖であり、大鳥井山南側においても、一部改変されている可能性があるものの約2aの段差が存在する。



小松茂真編1977『成三年合戦絵図』中央公論社より

横判(横判列)→A 土塁→B 堀(切岸)→C 堀→D 土塁→E

